

外觀と構造について

電蓄は家具であるというたてまえからいって、電氣的性能のほかには美しい外觀は絶対必要な条件です。

欧米は勿論、我国でも流行のさざしのある渋い落ついたチーク材で、和洋室どちらにもよく調和します。このキャビネットは、耐熱試験を行つてみても普通のいわゆるラッカー塗装の場合のように木目のあせや塗装割れがなく、またキズも目立たない特徴があります。長い使用にも外觀をそこなうことがありません。

このチークには、金色とかアイボリーが非常に良くはえるものですが、ゴールドブラッシングのパネル面にアイボリーのノブ、そしてアイボリーのホーンツイータが良い調和を作っています。

アンプは、プレーヤと共にセンターボックスに組み込まれ、アンプは上段にプレーヤが中段に、そして熱等の影響の最も少ない下段には、レコード棚があります。

例えば操作上アンプのノブは床上60~70cm位は必要で、この程度の高さのセットの場合、一番上部にあることが妥当でしょう。またプレーヤは、アンプの下にあることによつて、フラツタスの影響でのハムが防げることと、勿論アンプから発する熱でフオノモータの油を干してしまうようなこともありません。

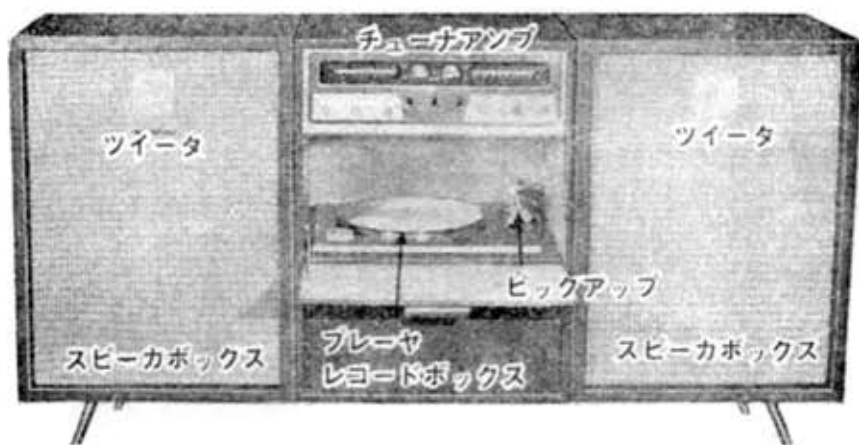
セットの規格一覧

チューナ・アンプ部

- ・形式 15球3マイナード4バンド
- AM-FM統合形ステレオアンプ (2チューナ方式)
- ・受信周波数帯 中波 (MW) 535~1605kc
- 短波 (SW) 3.8~12Mc
- 超短波 (FM) 80~108Mc
- ・感度 各種電界強
- ・中間周波数 AM: 455kc AM: 475kc
- FM 10.7Mc
- ・出力音 6BQ5 シングレ×2
- ・出力 無負 4W+4W
- 最大 6W+6W
- ・電源 90V~110V 50c/s, 60c/s
- ・消費電力 120W

# パイオニア S-41形

現金正価 75,800円



セット正面

この様式はセンターボックスの上部を有効に利用できます。このことはなんでもないので、現実には大変便利なことです。

アンプはその用途の広さに比べて、非常に簡素化されて使いやすく、しかも高級アンプの機能を持たせてあります。

スピーカシステムは2ウェイで、ツイータのプラスチックホーンが表面にでております。センターボックスとスピーカシステムを密着させた状態で、左右のスピーカの間隔は90cm離れております。一般の家庭ですと、このままで充分なステレオ効果が得られる状

スピーカ部

- ・スピーカ 高音 オート形×2個
- 低音 20mm×2個
- ・センターボックスキャビネット
- 幅 480mm 高さ 719mm
- 奥行 390mm 重量 25.5kg
- スピーカボックスは同様な寸法
- FMアンテナ内蔵 なし

プレーヤ部

- ・形式 4スピーカステレオプレーヤ
- ・モータ 4極シンクロモータ
- ・速度調節機構 なし
- ・ターンテーブル 25cm
- ・ピックアップ ユーロレックマグネット形
- ・消費電力 20W
- ・重量 4.5kg

態です。3点のキャビは幅が全く同じ48cmになっておりますので、セバレート特有の配置の点も、なにかと便利ではなからうかと思ひます。

アンプはコンパクトに無駄のないレイアウトで、整然と配置されてあります。

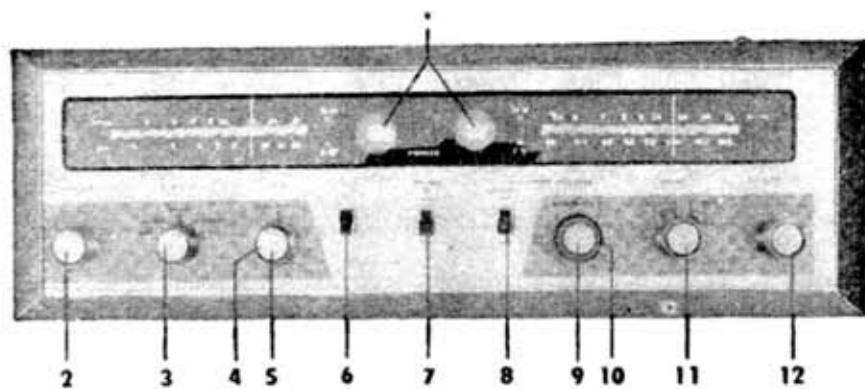
これだけのセットから放出される熱はかなりのもので、セットの天井いっばいにアスベストを張り、その上に厚い鉄板で放熱を十分に行つてあります。

プレーヤ部分は、最近その操作の簡易さで微調ノブのわずらわしきのないシンクロモータを採用してあります。このためプレーヤボードはシンプルになっています。

その他に、床を傷付けぬようにゴム台が付属しているのも便利な点でしょう。

主な特徴について

いままでもなくセバレート形のアンテナと、プレーヤをひと纏にしたセンターボックスと、スピーカボックスが分離できるために、好みの音響効果が得られることは勿論、その他に、このセットは次のような特徴があります。アンプは第1図の回路図をご覧になつてもおわかりのように、高級アンプ



チューナー・アンプの前面

の具備する機能を持つたエコノミカルアンプといえます。と申しますのは、チューナーは全ての機能を持ち、低周波部もマグネチックタイプからクリスタルカートリッジまで全て使用できて、完全なトーンコントロールやラウドネス等を持つもので、高級アンプの条件を具備しております。

プレーヤ部分については、トーンアームはダイナミックバランス形で、流行のハイアームを使用しています。

カートリッジは、ムービングマグネットで、2.5g の針圧で完全にトレースします。針の交換が容易なのも特徴の1つといえましょう。

モータは前記のようにシンクロナスを使用しているため、電圧の変動に関係なく回転数は常に一定を保ちます。

スピーカは、低音用としては PW-20A 系の 20cm 口径のものを使用し、高音用には特にセパレート用として設計されたプラスチックホーンツイータを使用しています。ツイータは、ホーン特有の金属音をなくし聞きやすい音に工夫されています。

セパレートにしても、アンサンブルにしても、最も重要な点は全体の機能のバランスにあります。

最近では各社共、残響装置とかボリウムエキスパンダ等をセールスポイントにしておりますが、オーソドックスな人々には一概に歓迎されない向きもあり、そうしたものに余計な努力をとられることなく、最も大切な本質的な面に備えております。従つて残響等を付けるには、別に CSR-1 形のような装置を用意して、ごわけです。

FM マルチの端子も備えてあります

ので、ステレオ放送が始まりますと、さらにこのセットの機能を発揮してくれるのではないかと思います。

### 回路について

低周波部の出力管には、音質の良いことで定評のある 6BQ5 のシングルになつております。その出力トランスもシングルでありながら、高域特性はすぐれていると思います。

この特性は第 2 図をご覧ください。出力はシングルアンプですので、歪率 3% 時で約 3.5W 得ております。メインアンプ部の利得は 34dB で、NFB は約 10dB となつております。第 2 図で NFB の効果は、この程度で歴然です。

トーンコントロールは、CR 減衰形で、その減衰量は約 18dB となつております。

本アンプの回路上の最大の特徴は、中間アンプおよびヘッドアンプが各々 12AX7 で、十分な利得を得ているいわゆるハイゲイン回路にあると思います。

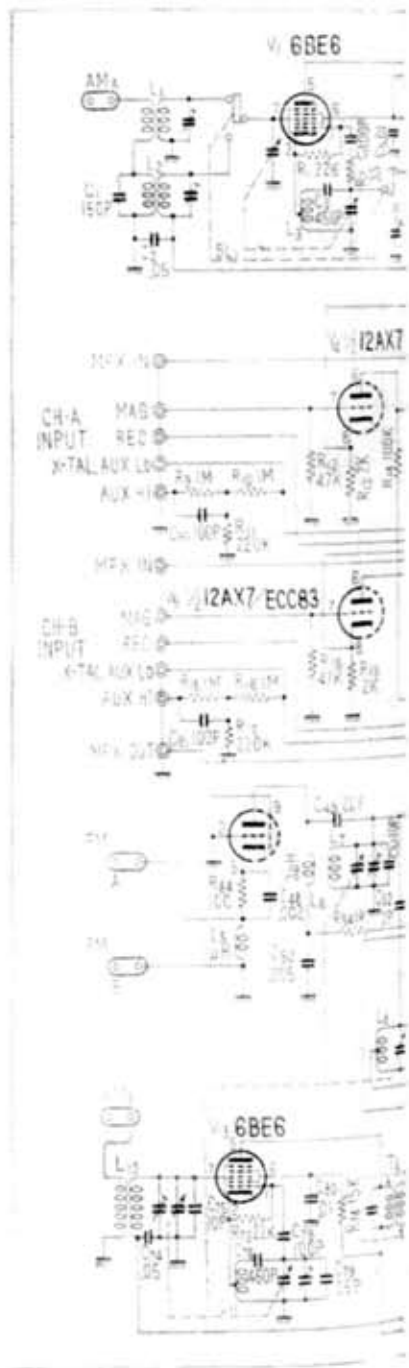
つまり MAG 端子からの総合利得は約 70dB もあります。入力 2.5mV で 16 $\Omega$  端子で 3W 6.9V が得られる高利得ぶりです。それは各部で十分な利得を得るばかりでなく、中間アンプカソード部よりヘッドアンプ部の、カソードにボジフィをかけた、約 7dB 位かせいで利得の上昇を計つております。

イコライザは NF 形の RIAA カーブのものです。

高周波部分は、まだ FM 放送の本放送がされていない現在、NHK や一部

- ①マジックアイ
- ②同調ツマミ左
- ③入力切換ツマミ
- ④高音ツマミ
- ⑤低音ツマミ
- ⑥中波・短波切換スイッチ
- ⑦電源スイッチ
- ⑧ラウドネス
- ⑨音量ツマミ A
- ⑩音量ツマミ B
- ⑪モードツマミ
- ⑫同調ツマミ右

の民放で行つている中波のステレオ放送は当然必要ですが、あるいは、FM のマルチステレオが始まれば不要になるかもしれません。



# 価格別市販 FM 付ステレオ電蓄の音響特性実測

それでAMが2本組込まれ、SWがNSB形で付いております。この部分は極く普通の回路ですが、帯域をただやたらと広げますと、ただでさえ現在雑音状況が多い地区が増してきますので、かえって帯域は適当にせばめた方が良く結果が得られます。本機は3kcの帯域幅になっております。

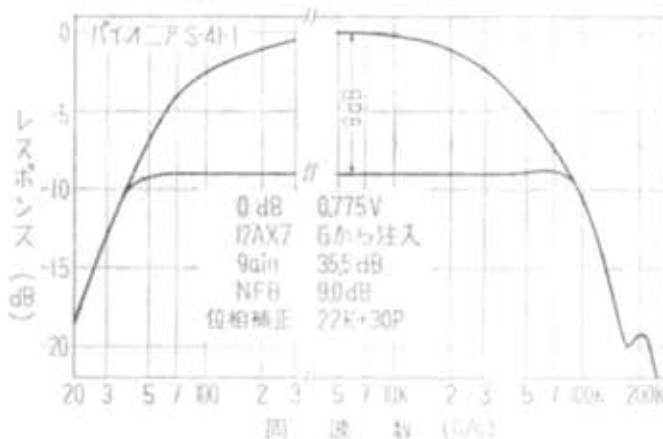
FMセクションは、6AQ8で高周波増幅、これはグラウンデッドグリッドで、それとミクサー、もう1本の6AQ8で変振とAFCのリアクタンス管となっています。

最近では米国等で、デスクリの直線部分を非常に広げて1Mcもあるものが

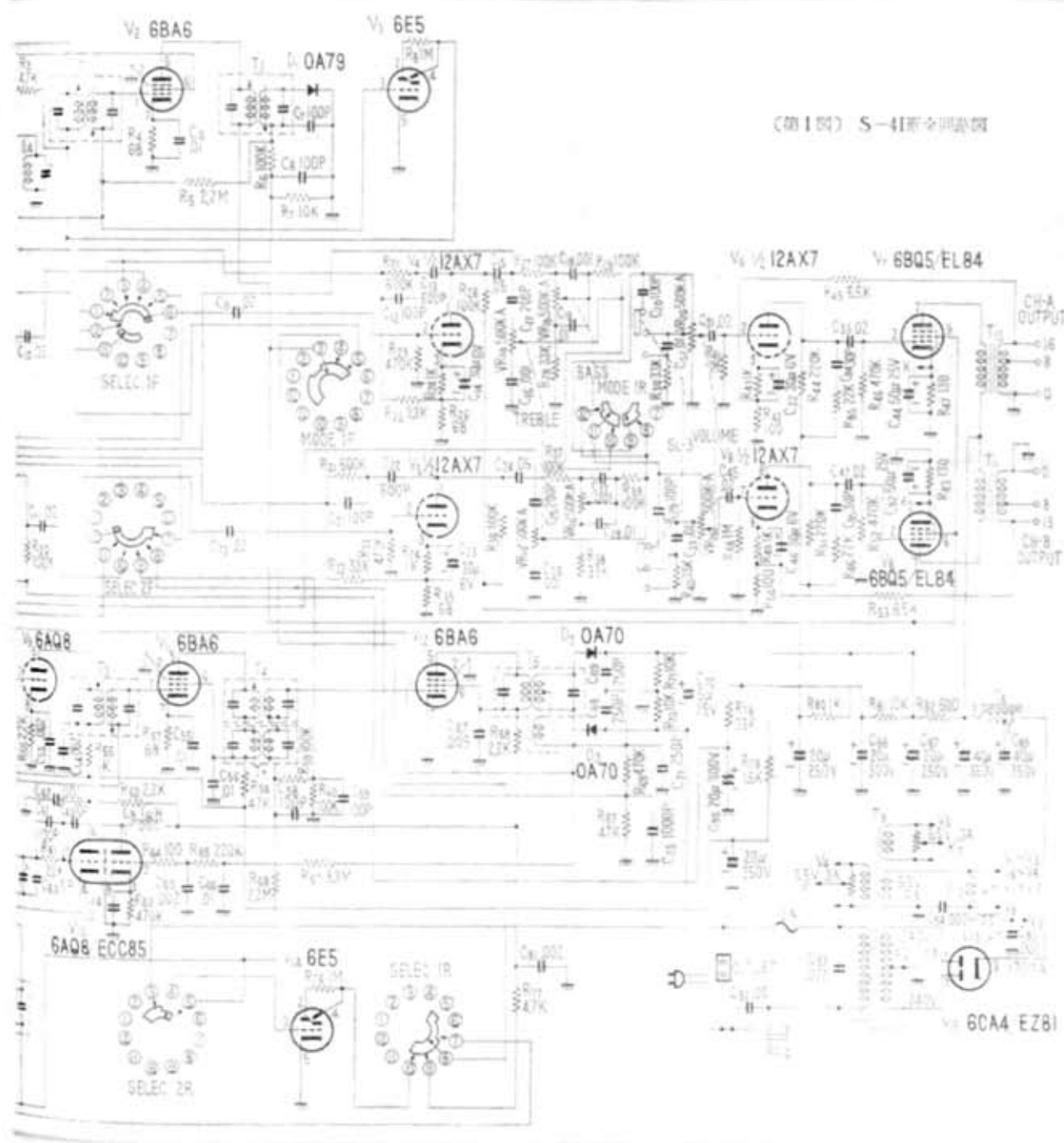
あります。これ位広いとAFC無しで多少の離調しても歪まないかも知れません。これはマルチステレオの際有利な点でしょう。この直線部分を越すにはレシオ検波が有利で、本機もレシオを採用しています。IFは2段ですが、レシオ検波はリミッター効果のあることは

いうまでもありません。

FM放送のバンド幅は、最近各社で広いものを出しておりますが、本機



(第2図) 低周波部の周波数特性



(第1図) S-4 1st AF Amplifier